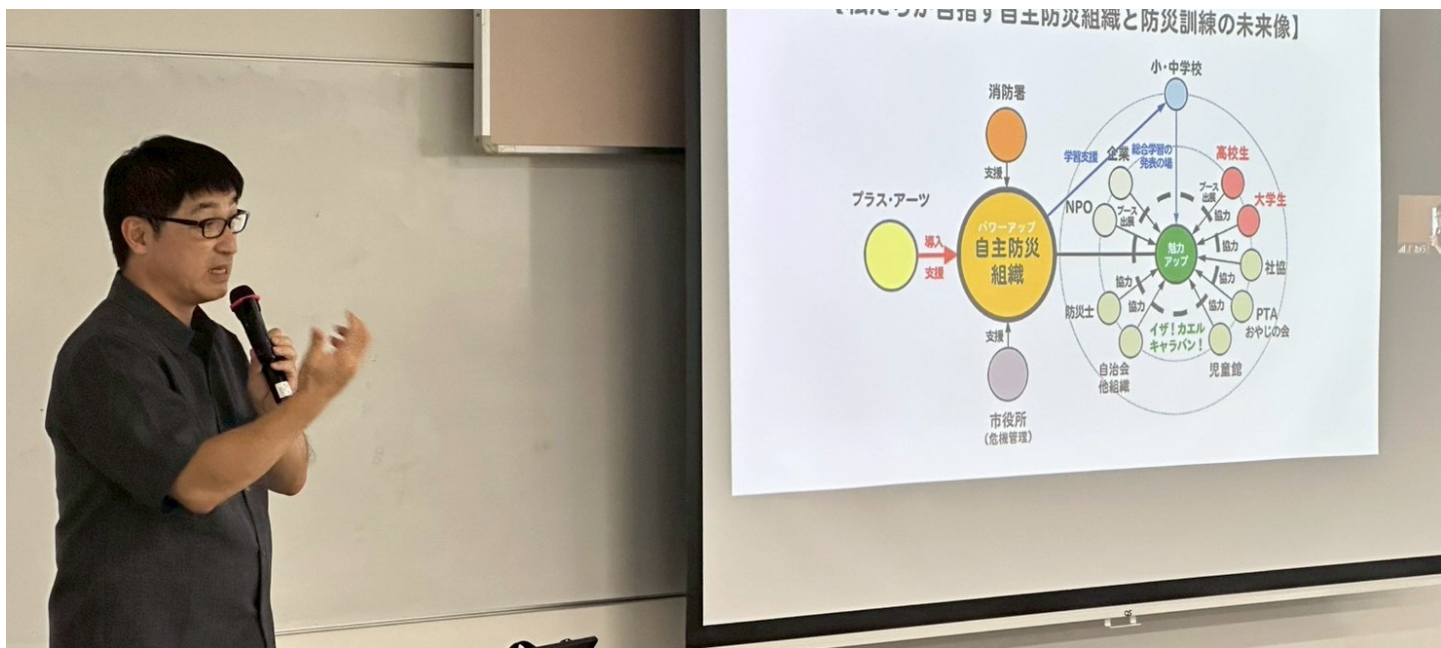




公開講座 地域課題×活動の魅力

～不完全プランニングとプラスクリエイティブ～

日時：6月29日（日）14:00～17:00
 会場：なは市民活動支援センター 会議室①
 参加：一般参加・チアーズ含め約50名



なは市民協働大学院2025の開講に先立ち「公開講座」を開催しました。本講座は、地域づくりに関心のある市民や受講を検討中の方、修了生、地域活動を実践するOB・OGが一堂に集まり、実践知の共有と学び合いの場として位置づけられています。公開講座タイトルは『**地域課題×活動の魅力 ～不完全プランニングと+クリエイティブ～**』。講師にKIITO（デザイン・クリエイティブセンター神戸）センター長であり、プラスアーツ理事長の永田宏和さんをお迎えし、講話と修了生の実践報告、参加者同士のディスカッションと交流を通じて、「地域で動き出すきっかけ」をつかむ場となりました。

地域づくりに必要なのは“不完全”な企画？

企画プロデューサーの永田さんから以下の2つのキーワードが提示されました。

- ・「俯瞰」の視点を持つこと
- ・「不完全プランニング」で人を巻き込むこと

「俯瞰」には2つの視点があります。一つは、地域や支援対象者だけでなく、その周囲にいる潜在的パートナー（学校、商店、福祉団体など）に目を向ける視点。もう一つは、活動を一回きりのゴールではなく、「その後どんな広がりや育成が生

まれるか」という時間軸での視点です。

「不完全プランニング」は、あえて余白を残した企画にすることで、地域の人々が“ちょっと手を貸したくなる”状況を生み出すこと。完璧に仕上げすぎず、関わりしるを残すことが、住民の

主体性や協働のきっかけになります。

・紹介された事例の一部

《イザ！カエルキャラバン！》

防災訓練とおもちゃ交換会を融合した家族参加型イベント

《パン爺》

退職後の高齢男性がパンづくりを通じて地域に関わるモデル

《ちびっこうべ》

子どもたちが仮想の「まち」をつくって運営するキャリア教育プログラム



また、「風・水・土・種」という比喻で地域づくりの役割分担が紹介されました。

- ・ **風の人** = 企画の種をまく人 (外部支援者・専門家)
- ・ **水の人** = 種を育てる人 (地域プレイヤー)
- ・ **土の人** = 地域の暮らしに根ざした住民
- ・ **種** = 活動や行事

「今、地域の“土”が痩せてきている」と永田さん。だからこそ、“風”と“水”が連携し、活動を根づかせていく仕組みが重要だと強調されました。

「じっくり・しっかり・ちゃっかり」

続いて、事務局の宮城（NPO法人地域サポートわかさ）より、

なは市民協働大学院の概要とカリキュラムの紹介が行われました。



本大学院は、「地域の課題を自分ごととして捉え、他者と協働しながら企画をカタチにできる人材＝“コーディネーター的人材”」を育成する市民向けの実践型プログラムです。

コンセプトは3つのキーワード：

- ・ **じっくり**：地域の現状を知り、課題を発見する力
- ・ **しっかり**：企画に落とし込み、行動へと移す力
- ・ **ちゃっかり**：楽しみながら人を巻き込み、つながりを広げる

講座は全8回にわたって開催され、地域調査、企画づくり、プレゼン、フィードバックを通して、実践力を高めていきます。

OB/OGの発表

講座後半では、修了生2チームによる地域活動の報告が行われました。



▶夕陽をみる会（2024年度）

那覇市西の「三重城海岸」の美しさに感動した移住者の思いがキッカケとなって立ち上げたプロジェクト。



▶たのしむぞ！06（2023年度）
「防災を“楽しく”学べる場に」という思いからスタートしたプロジェクト。

活動継続のヒントは、“余白”と“遊び心”

後半のディスカッションでは、参加者から活動の継続性、仲間との関係性、モチベーション維持に関するリアルな悩みや気づきが共有されました。

永田さんからは、「失敗なんてない。課題が見つかったと思えばいい」「無理せず、自分たちのペースで“ゆるく続ける”ことが何より大事」とやさしく背中を押してくれました。

講座の様子は、毎回ブログに掲載します。チェックしてください！

